

—拍子窓から、四季の移ろいを愉しむ。—



拍子窓 (ひょうしまど)

日本には昔からリズムや音を楽しむ風習がある。その一つに俳句が挙げられる。俳句は五・七・五の17音で構成される日本の伝統的な短詩だ。四季の移ろいや日常の些細な景色のなかにある美しさを感じ、17音の中にスケッチのように落とし込むことが俳句の特徴である。また、五・七・五の短い詩の中に生み出されるリズム感も俳句の良さの一つに挙げられる。

この住宅では、窓の配置を俳句のリズムを応用し、「拍子窓」を設けた。この拍子窓は、同じ風景でも形の異なる窓からのぞくことで、見える風景が変化することを楽しむことができ、その時の自分が見る場所・時間で唯一無二の場所を演出している。